

Total Rehabilitation Research

Printed 2015.2.28 ISSN 2188-1855

Published by Asian Society of Human Services

*F*ebruary 2015
VOL. **2**



Kanoko CHINEN
[Zamami Island]

SHORT PAPER

ソーシャルワーク教育におけるカルチュラル コンピテンスの研究動向に関する調査研究 －英語文献の内容分析を用いて－

陳 麗婷¹⁾

1) 上智社会福祉専門学校

<Key-words>

カルチュラルコンピテンス, ソーシャルワーク教育, 内容分析, 自己覚知, 全米ソーシャル
ワーカー協会

chen-li@sophia.ac.jp (陳 麗婷)

Total Rehabilitation Research, 2015, 2:106-115. © 2015 Asian Society of Human Services

I. 問題と目的

陳 (2014a) は、台湾の多国籍家族の早期療育においてカルチュラルコンピテンスの概念が有効であることを示した。現在台湾のソーシャルワーク研究においてカルチュラルコンピテンスが言及されるようになった。カルチュラルコンピテンスに言及する領域として、「ビジネス」「教育」「ソーシャルワーク」「医療」「社会文化」「司法・行政」「心理」が見出された。年代と領域における変化を探った結果、20年前より言及されるようになり、過去10年で教育・福祉・ビジネスの領域で伸びが著しかった (陳, 2014b)。それに対して、日本のソーシャルワーク領域のみに目を向けたところ、過去10年で在日外国人と聴覚障害者に関する研究においてようやく言及されるようになった (石河, 2012; 原, 2011)。しかし、台湾のソーシャルワーク領域において、グローバリゼーションと国内の先住民族の尊重の影響により、カルチュラルコンピテンスの概念の重要性が認識されるようになったものの、ソーシャルワーク教育の方法が確立しているわけではない。

そこでカルチュラルコンピテンスに関するソーシャルワーク教育の先進的な取り組みを調べたところ、カルチュラルコンピテンスを正面からソーシャルワーク領域で議論し、実践し、教育し、評価しているのはアメリカであると考えられた。具体的には以下のような取り組みが見られる。全米ソーシャルワーカー協会 (NASW) 倫理綱領前文 (2008) に以下のように示されている。「支援が必要で、抑圧され、貧困生活をしている人々に注目すべきである」とした上で「ソーシャルワーカーは文化や民族の多様性を十分に認識し、差別・抑圧・貧困・その他の社会的不正義をなくすために努めなければならない」としている。さらには、NASWは「ソーシャルワーク実践におけるカルチュラルコンピテンスに関する規準」(2001)を設

Received

October 31, 2014

Accepted

December 18, 2014

Published

February 28, 2015

定している。そこで、「カルチュラルコンピテンス」を次のように定義している。「個人やシステムが敬意を持って効果的に、文化・言語・人種・階層・民族的背景・宗教・その他の多様性の生じさせる要因を持つ人々に対応していくプロセスである。そこでは個人・家族・コミュニティの価値を認識し、肯定し、高く評価し、個々の尊厳を認識していく」としている。その上で、「倫理と価値」「自己覚知」「異文化に関する知識」「異文化に対応する技術」「サービス提供」「エンパワメントとアドボカシー」「専門職教育」「言語多様性」「異文化のクライアントグループに対するリーダーシップ」「雇用における専門職の多様性」などの項目を挙げている。当然教育もそれを念頭に入れた取り組みが求められる。

確かに、移民が多いアメリカではソーシャルワークの教育において、アジア国々より早くカルチュラルコンピテンスを取り上げている。しかし、ソーシャルワーク教育研究としてカルチュラルコンピテンスが現在どのように取り上げられているのかを俯瞰したものはまだ見当たらない。特に以下の点で明確にした研究は乏しいように考えられる。

第一は、カルチュラルコンピテンスがどのような背景で取り上げられるようになったのかを探ること。

第二は、ソーシャルワークのどのような支援対象で言及されているのかを探ること。

第三は、カルチュラルコンピテンスに取り組むソーシャルワーク専門職に何が求められているのかを明確にすること。

そこで本研究では、カルチュラルコンピテンスを、ソーシャルワーク教育に限定して、アメリカを中心とする英語文献でどのように取り上げられているのかを探る。

上記の課題に取り組むために、本研究は、内容分析の手法を用いて、カルチュラルコンピテンスの教育に関する英語文献を分析し、基礎資料を作成することを目的とする。アジアのソーシャルワーク教育の一助になると考えられる。

II. 方法

「EBSCO HOST」上の「Academic Search Premier」と「ERIC」の文献調査エンジンを用いて、“social work”、“education”、“cultural competence”の3語で2000年以降の査読付文献を検索した。その結果、268件の文献が該当したが、さらに内容をチェックして、ソーシャルワーク教育を論述していないものを除いた。結果的に学術誌から77件が該当した。それらを対象に論文内容に対して内容分析を行った。

III. 結果

上記の論文を内容分析し、論文の議論された年度で整理した結果、2000～2004年の論文数は9件(11.7%)、2005～2009年は32件(41.6%)、2010～2014年10月は36件(46.7%)であった。確実に増加していることが認められた。次に内容分析の結果、「カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景」、「支援対象」、「教育対象」、「専門職に求められること」、「教育方法」の5つのカテゴリーが抽出された。以下に詳細を示す。

1. カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景

カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景として、表1の通りに整理された。

表1 カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景

大項目	小項目	記述件数
社会的状況 (社会的にカルチュラルコンピテンスを取り上げる必要が生じた背景)	文化的絶縁状態・差別・不平等	4
	移民の増加	3
	現在のソーシャルワーク教育の状況	1
	先住民に対する尊重の必要性	2
	グローバリゼーション	4
	文化・民族の多様性、多元的多文化社会	12
	特別なサービスニーズを持つ利用者の重要性	1
	パラダイムチェンジ	2
理論構築の必要性	新たなアプローチの必要性・多様性への理解	3
	概念を新たに構築する必要性	3
	ソーシャルワークの一般教育における価値に組み込む必要性	1
	知識や概念を再構築し、また拡大する必要性	3
カルチュラルコンピテンスの重要性の認識	カルチュラルコンピテンスがソーシャルワークにおいて不可欠なものとして認識される	8
大学への社会的要請	大学が先住民の問題に取り組むことが求められるようになった	1
支援における課題 (さらに充実・開発していく必要があること)	先住民への取組	4
	文化に根差したライフスタイルへの支援	1
	文化的絶縁状態・差別・不平等・抑圧に対するソーシャルワーカーの姿勢	4
	移民に対するソーシャルワーカーの姿勢	1
	ソーシャルワーカーのローカリゼーション	1
	多様性に対するアプローチ	2
	特別なサービスを必要としている人々の存在と少数派に対する支援技術	9
	特別な社会福祉プログラム	2
教育方法の課題 (従来の方法では不十分であること)	教育実践モデル	2
	多様性に関する内容の教育・多様性に関するカリキュラム	4
	グローバル化したソーシャルワークカリキュラム	2
	教育方法に関する議論	7
	学生の文化的構造について明らかにすること	3
	ソーシャルワーク教育と実践における人種と文化に関する検討	1
評価における課題 (現在評価が十分になされていないこと)	ソーシャルワーク教育においてカルチュラルコンピテンスを評価・点検すること	14
	ソーシャルワーク実践技術のアセスメント	6
	カリキュラムの評価	2
	教育者に対する審査	3
	学生に対する審査	3
	教育効果の評価	1
	ソーシャルワーカーに対する評価	1
	特別な少数派の状況に対する評価	1

「カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景」の大項目として「社会的状況」、「理論構築の必要性」、「カルチュラルコンピテンスの重要性の認識」、「大学への社会的要請」、「支援における課題」、「教育方法の課題」、「評価における課題」、が抽出された。

2. 支援対象

カルチュラルコンピテンスに関する支援の対象として取り上げられたのは、移民に限られない。結果は表 2 に示した通りである。

表 2 支援対象

大項目	小項目	記述件数
移民	移民	4
民族	黒人・アフリカ出身のアメリカ人	4
	白人以外の人種的起源を持つ者	3
	ヨーロッパ出身のアメリカ人	1
	先住民	8
	民族的少数派	2
	少数派の人種	4
	民族的・人種的少数派	3
	特別な文化を持つ者	1
スピリチュアル	スピリチュアル	1
	宗教	1
薬物・精神保健	トラウマ	1
	メンタルヘルス	2
	薬物・アルコール	1
ジェンダー	ジェンダー	1
セクシュアルマイノリティ	セクシュアルマイノリティ	4
若年者	問題を起こす若年者	1
	青少年	4
高齢者	高齢者	2
病者・障害者	がんの回復者	1
	ろう者	2
	難聴者	1
その他	辺境化された人々	1
	DV 被害者	1

3. 教育対象

対象が大学学部生と大学院生のいずれかが区別できない論文もあり、それは「区分ができないソーシャルワーク学生」とカテゴリー化した。結果は下記の表 3 の通りである。

表3 教育対象

教育対象	記述件数
大学においてソーシャルワーク教育に携わる者	9
ソーシャルワーク大学院生	12
学部生	5
上記の区分ができないソーシャルワーク学生	14
ソーシャルワーカー	18
政策関連者	1

4. 専門職に求められること

専門職に求められることは、表4の通りに整理された。

表4 専門職に求められること

大項目	小項目	記述件数
社会に対する認識	社会正義	6
	社会政策へのかかわり	2
	社会への認識	1
	多様性	2
自己への理解	自己覚知	6
	ジレンマへの認識	1
	人種に関する認識	1
利用者への理解・態度	クライアントの嗜好性	2
	利用者への態度	1
	トラウマや人種差別について理解すること	1
	文化理解	9
	偏りなく奉仕すること	1
	家族への献身	1
	スピリチュアリティに関する理解	1
視点	多文化の視点	4
	反差別・反抑圧的实践	4
	内省	4
	批判的認識・思考	3
	建設的に辺境性をとらえること	1
	オープンマインドな思考方法	1
	エコロジカルな視点	2
	グローバルな視点	1
	エンパワメント	3
	ストレングスの視点	2
	スピリチュアリティに関する視点	2

技術	評価 (evaluation)	2
	ソーシャルワーク技法のローカリゼーション	1
	コミュニティ実践	1
	臨床専門技術	1
	困難な状況を超えて生き残る技術	1
	異文化に対応する技術	1
知識	知識	3
	学問領域を超えた知識	1
	専門職の継続的教育のための知識	3
	異文化に関する体験的知識	1

記述件数では、専門職に求められる内容として、「文化理解」、「社会正義」と「自己覚知」、「反差別・反抑圧的实践」と「多文化の視点」と「内省」、の順位で取り上げられている。

5. 教育方法

教育方法は、以下の表 5 の通りに整理された。

表 5 教育方法

大項目	小項目	記述件数
体験・経験を活用する 試み	学生に実践・モデル・プログラムを体験させる	10
	学生の過去の体験を用いる	2
	ソーシャルワーカーの体験を活用する	3
理論の検討	ソーシャルワーク教育理論のレビュー	4
	ソーシャルワーク教育アプローチ・ソーシャルワーク教育方法の批判的分析	2
	関連学問領域の文献レビュー	3
	学際的な試み	1
	批判的人種理論へのレビュー	2
	ソーシャルコンピテンスのレビュー	1
個人の振り返り	自分に関して認識した時を実感する	1
グループワーク	学生のグループワーク	4
	ワークショップ	1

大項目として抽出された教育方法では、①体験・経験を活用する試み、②理論の検討、③個人の振り返り、④グループワークが教室内の方法として挙げられている。また、海外の福祉現場でのインターンシップの教育方法も試みられている。

IV. 考察

結果として、5つのカテゴリーが抽出されたが、以下の4点について考察したい。結果の概要を踏まえつつ述べていく。第1にソーシャルワーク教育にカルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景、第2にカルチュラルコンピテンスにおける支援対象者の多様性、第3

にカルチュラルコンピテンスがソーシャルワーク専門職に求めるもの、第4にカルチュラルコンピテンスの教育方法、である。以下に個々の項目について述べていく。

1. ソーシャルワーク教育になぜカルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景

「カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景」の大項目として社会的背景〔グローバルイゼーション、社会的不平等（人種、不平等を視野に入れる：Phan, Vugia, Wright et al., 2009）、多様なサービス利用者の増加など〕、理論構築の必要性（カルチュラルコンピテンスを精緻に再検討する必要性、文化的葛藤を通して批判的に内省する（Yan, 2008）、支援においてカルチュラルコンピテンスの重要性が認識されたこと、大学への社会的要請、支援における課題（従来の方法では適用できなくなった）、教育方法の課題（学生に自己覚知を促す、カリキュラムのデザイン、教育実践方法）、評価における課題（学生・ワーカーの知識や技術に対する評価、カリキュラムやトレーニングの効果に対する評価、教育者自身に対する評価）、が抽出された。

即ち、移民が増加したので新たな対応を求められたという単線的・消極的な次元ではなく、従来の支援や教育のみでは十分な効果を示しえないという認識から、新たな理論・支援方法の構築とそれに伴う教育方法が模索されなければならなくなったのである。また教育現場では教授方法の効果測定も迫られ、その評価尺度の作成も求められたということである。以上の多くの要因が複合的に作用していることが認められる。

2. カルチュラルコンピテンスにおける支援対象者の多様性

支援対象では、移民の記述件数が一番多い。しかし実はカルチュラルコンピテンスを用いて支援を検討されているのは、移民だけではなく、①国内の民族の多様性②薬物・精神保健（Luger, 2011）③セクシュアルマイノリティ、④スピリチュアリティ（Hodge & Limb, 2010）、⑤高齢者（Maschi, MacMillan, Pardasani et al., 2013）、⑥問題を起こす若者たち、⑦ろう者（Crowe, 2002）、⑧がんの生存者（O'Connor, 2012）などに対象が広がっている。これは、カルチュラルコンピテンスが社会的なグループの文化に対する個別性を理解・尊重しようとする姿勢が普遍的であることを示唆しているのであろう。

3. カルチュラルコンピテンスが専門職に求めるもの

記述件数では、専門職に求められる内容として、「文化理解」、「社会正義」と「自己覚知」、「反差別・反抑圧的实践」と「多文化の視点」と「内省」、の順位で取り上げられている。

さらには、カルチュラルコンピテンスが単に文化理解に留まらず、社会に挑戦する側面〔差別や人種主義への挑戦（Brown, Gourdine & Crewe, 2011）〕、セクシュアルマイノリティ（Crisp, 2006）、DV 被害者（Bent-Goodley, 2004）の人権を重視すること）、自分と向き合う側面、利用者を尊重する側面、思考として内省する側面、技術として現実的に有効な支援をしていくという側面、知識という側面、が内包されている。そのため、カルチュラルコンピテンスを論じる際には、いずれか一つの側面に矮小化されてはなるまい。

4. カルチュラルコンピテンスの教育方法

まず教育対象として、現場のソーシャルワーカーやソーシャルワーカーの教育者や政策関連者も対象となっており、特に現場の支援に資する教育も求められているということである。

さらに、教育方法は実験的な試行錯誤がされている。大項目として抽出された教育方法として①体験・経験を活用する試み②理論的な検討〔ソーシャルワークの教育理論の批判的検討 (Jani, Pierce, Ortiz et al., 2011)、心理学・医療・看護学との学際的検討 (Krentzman & Townsend, 2008)〕、③学生自身の自己覚知を促すこと、④グループワークなどを教室内で行う方法が挙げられる。教室内での教育ではクリティカルシンキングも踏まえた上で、他者理解と自己理解を促すような試みがされている。ただし、教室内では限界があるとの認識から、海外の福祉現場でのインターンシップの教育方法も試みられている。

前述の「カルチュラルコンピテンスが取り上げられた背景」にも述べられた通り、カルチュラルコンピテンスは従来のソーシャルワーク教育では十分な効果を示せないという認識から議論されてきた。当然方法においても実験的となるであろう。本当に有効な教育を展開するには、これらを有機的に統合していくことが求められよう。

V. おわりに

本稿ではカルチュラルコンピテンスがソーシャルワーク教育の英語文献の中でどのように取り上げられているのかを調査し、その結果を示した。カルチュラルコンピテンスは、ソーシャルワークにおいて移民のみならず個々の社会グループの文化を理解し、尊重することの意義を認識せしめたと言える。前述したようにソーシャルワークを本質的に考える契機になるのではないかと考えられる。

ただし本稿では二つの課題がある。一つは論文対象数が少ないことである。もう一つはカルチュラルコンピテンスの視点は有効であると安易に考え、カルチュラルと括ってしまうことに対する批判的考察については議論し得なかったことである(注1)。これらは今後の課題としたい。

注

- 1) 国際ソーシャルワーカー連盟が2014年に改定した「ソーシャルワークのグローバル定義」では、従来の植民地主義への反省から民族固有の知も大いに有効であることを述べている。しかし社会文化が常に有益なものとは限らず文化的信念・価値が基本的人権を侵害する可能性も示唆している。

文献

- 1) 陳麗婷(2014a) 台湾の外国籍家族の早期療育ソーシャルワーク支援に関する検討—社会的障壁との相互作用に着目して—. *Asian Journal of Human Services*, 6, 149-160.
- 2) 陳麗婷(2014b) 台湾のソーシャルワークにおける「カルチュラルコンピテンス」の研究動向に関する研究—量的内容分析を用いて—. *Asian Society of Human Services Congress in Sapporo*, 115-117.
- 3) 石河久美子(2012) 多文化ソーシャルワークの理論と実践—外国人支援者に求められるスキルと役割—. 明石書店.

- 4) 原順子(2011) 聴覚障害ソーシャルワーカーのカルチュラル・コンピテンスに関する一考察. 四天王寺大学紀要, 52, 87-98.
- 5) Phu Phan, Holly Vugia, Paul Wright, Dianne R. Woods, Mayling Chu & Terry Jones(2009) Teaching note: A social work program's experience in teaching about race in the curriculum. *Journal of Social Work Education*, 45(2), 325-333.
- 6) Miu C. Yan(2008) Exploring cultural tensions in cross-cultural social work practice. *Social Work*, 53(4), 317-328.
- 7) Lisa Luger(2011) Enhancing cultural competence in staff working with people with drug and alcohol problems: A multidimensional approach to evaluating the impact of education. *Social Work Education*, 30(2), 223-235.
- 8) David R. Hodge & Gordon E. Limb(2010) Conducting spiritual assessments with native Americans: Enhancing cultural competency in social work practice courses. *Journal of Social Work Education*, 46(2), 265-284.
- 9) Tina Maschi, Thalia MacMillan, Manoj Pardasani, Ji S. Lee & Claudia L. Moreno(2013) Moving stories: Evaluation of an MSW experiential learning project on aging and diversity. *Journal of Social Work Education*, 49(3), 461-475.
- 10) Thresa V. Crowe(2002) Translation of the Rosenberg self-esteem scale into American sign language: A principle components analysis. *Social Work Research*, 26(1), 57-63.
- 11) Stephen J. O'Connor(2012) Welfare reform and cancer survivorship: Why means testing the benefits of cancer survivors unable to work is inimical to the moral, ethical and cultural competence of a modern society. *European Journal of Cancer Care*, 21(2), 141-142.
- 12) Anni W. Brown, Ruby M. Gourdine & Sandra E. Crewe(2011) Inabel burns lindsay: Social work pioneer contributor to practice and education through a socio-cultural perspective. *Journal of Sociology & Social Welfare*, 38(1), 143-161.
- 13) Catherine Crisp(2006) The gay affirmative practice scale(GAP): A new measure for assessing cultural competence with gay and lesbian clients. *Social Work*, 51(2), 115-126.
- 14) Trica B. Bent-Goodley(2004) Perceptions of domestic violence: A dialogue with African American women. *Health & Social Work*, 29(4), 307-316.
- 15) Jayshree S. Jani, Dean Pierce, Larry Ortiz & Lynda Sowbel(2011) Access to intersectionality, content to competence: Deconstructing social work education diversity standards. *Journal of Social Work Education*, 47(2), 283-301.
- 16) Amy R. Krentzman & Aloen L. Townsend(2008) Review of multidisciplinary measures of cultural competence for use in social work education. *Journal of Social Work Education*, 44(2), 7-31.

SHORT PAPER

A Study of “Cultural Competence” in Social Work Education Research: Using Quantitative Content Analysis on English-Written Literature

Liting CHEN¹⁾

1) Sophia School of Social Welfare, Japan

ABSTRACT

In the field of Taiwanese social work, the importance of the concept of “cultural competence” has been increasingly recognized because of the effect of globalization and the respect of ethnic minorities. However, the methods of cultivating cultural competence in social work education have not been established.

In the United States, cultural competence has been positively discussed, practiced, educated, and evaluated. In fact, the National Association of Social Workers established the “standard for cultural competence in social work.” However, we cannot find research that holistically discusses cultural competence in the following three respects:

1. To explore the backgrounds of cultural competence in the field of social work education
2. To explore the domains of social work education in which cultural competence has been referred to
3. To explore what is expected of social work professionals

Therefore, in this paper I focus on cultural competence in the field of social work education and explore how it has been addressed in English literature, especially in the United States.

In order to tackle this subject, I use the content analysis, and I analyze the backgrounds of cultural competence education, expectations of the professional, educational methods, supporting subjects, and educational subjects. This research, which considers cultural competence education, might be useful for the social work education of Asia.

<Key-words>

cultural competence, social work education, content analysis, self-awareness, National Association of Social Workers

chen-li@sophia.ac.jp (Liting CHEN)

Received
October 31, 2014

Total Rehabilitation Research, 2015, 2:106-115. © 2015 Asian Society of Human Services

Accepted
December 18, 2014

Published
February 28, 2015

Total Rehabilitation Research VOL.2

発行 2015年2月28日
発行人 Masahiro KOHZUKI ・ Youngjin YOON
発行所 Asian Society of Human Services
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1
TEL/FAX 098-895-8420

定 価 ￥2,000 円 (税別)

*落丁・乱丁本はお取り替え致します。

*本書は、「著作権法」によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。本書の全部または一部につき、無断で転載、複写されると、著作権等の権利侵害となります。上記のような使い方をされる場合には、あらかじめ本学会の許諾を求めてください。

Printed in Japan

Total Rehabilitation Research

VOL.2 February 2015

CONTENTS

ORIGINAL ARTICLES

Study on the Activation of Able-Art through the Corporate Mecenat.....**Moonjung KIM**, et al. 1

Corsi Blocks Task Complexity Effects in People with Intellectual Disabilities.....**Yuhei OI**, et al. 22

Current Situation and Issues of Inclusive Education System in Okinawa
: Analysis Using the Inclusive Education Assessment Tool(IEAT).....**Natsuki YANO**, et al. 30

The Comparison and Consideration of Support Services for the Students with Disabilities
in Higher Education Institutions in Japan and South Korea
: In the Aspect of the Career Education for the Employment Promotion of Persons with Disabilities.....**Haejin KWON**, et al. 46

REVIEW ARTICLES

The Effect of Complementary and Alternative Medicines on Cognitive Function in Alzheimer's Disease
: A Systematic Review.....**Minji KIM**, et al. 64

Research Trends and Prospects of Psychological Tests on Children of Intellectual Disabilities.....**Aiko KOHARA**, et al. 80

SHORT PAPERS

Approach to the Educational Needs of Severe Motor and Intellectual Disabilities by Visiting Education.....**Eunae LEE**, et al. 95

A Study of "Cultural Competence" in Social Work Education Research
: Using Quantitative Content Analysis on English-Written Literature.....**Liting CHEN** 106

Research Trends and Issues of Foreign Language Activities in Special Needs School.....**Minami KINJO**, et al. 116

Principles and Curriculum of Education Recommended for Children with Intellectual Disabilities
: Working Memory Training for Children with ID: A Review.....**Shogo HIRATA**, et al. 124

A General View of Construct and Characteristics of Self-evaluation Depression Scale in Japan.....**Kohei MORI**, et al. 135

Published by
Asian Society of Human Services
Okinawa, Japan